



発行人 福島県教職員組合  
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141  
〔定価一部 20円〕  
編集・責任者 國分俊樹  
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp  
http://www.f-t-u.or.jp  
(この購読料は組合費に含まれています。)

あらゆるケガに備え  
レスキュー  
スリー  
募集中!  
教職員共済

## 県人勸 月例給の改訂なし ~20秋闘県教委交渉実施~

2020秋闘の県教委交渉は、新型コロナウイルス感染防止のため、中央執行委員と各支部長を中心に実施しました。11月19日の確定交渉では、11月12日の第2波で要求した事項の確認をし、現場からの実態をもとに交渉を実施しました。

### 賃金について

人事委員会勧告通り実施

- 月例給は、改訂なし。
- ボーナスの0.05月引下げ。
- ガソリン価格の下落のため、引下げ。
- 特殊業務手当(部活動手当)の改定  
2時間以上3時間程度未満業務に従事したこと …1,800円  
3時間程度業務に従事したこと…2,700円(新設)  
4時間程度業務に従事したこと  
(大会引率等に限る) …3,600円

### 教職員の増員について

- ① 代替者の不足数を明確にし、現状改善のための具体的な対応策を追及。
- ② 代替者不足、採用試験受験者の減少に向けた、県教委としての施策について強く迫った。  
委) 県内講師経験者に対しては、地区経験みなしのインセンティブを設定した。  
組) 組合からの要求事項でもあったので、講師の人達にも励みになる。福島県で教員を目指す学生が増えるよう、「福島県で教員として働けば、奨学金返済を免除する」ということはできないか。

### 働き方改革について

- 特殊業務手当(部活動手当)の増額について
  - ・4時間程度業務は、「大会引率等に限る」とあるが、遠征や合宿も含まれることを確認。
  - ・「働き方改革」「改正給特法7条」の考え方から、休日部活動上限3時間は、徹底することを強く要求。
- 持ち帰り業務削減に向けた実態調査の実施を要請。
- 第7次福島県総合教育計画へ、時間外在校等時間削減の考え方を反映させるよう要請。
- 現在作成されている新「多忙化解消アクションプラン」の中で、2020.7.17付文科相通知第14号にある【学校の業務であるものの必ずしも教諭等が担う必要のない業務】【基本的には学校以外が担うべき業務】を明確にすることを要望。
- 一年単位の変形労働時間は導入されない方向。



### 新採用学校事務職員の実技研修について

- 県の行政職と一緒に実施されている新採用学校事務職員の研修については、春の交渉より、継続して要求しています。県の教育センターの研修に、事務職員の研修を組み込めるよう検討していくという回答でした。今後も、学校事務職員の単独研修を要望していきます。

## 県教委専門部交渉開催します!

コロナ禍における現状をふまえ、今年度の専門部交渉の開催について協議してきましたが、対面で実施することにしました。**12月24日(木)午前中**に、事務職員部、栄養教職員部、青年部、女性部のみの開催となります。地区によっては、2学期がまだ終了していないという日程となりましたが、参加可能な方は、ご連絡をお待ちしています。

# 東日本大震災 10年目の今

## 原発災害現地調査報告③

教育研究所研究員 大槻 研 司

### 「東日本大震災・原子力災害伝承館」その1

今年9月20日、双葉町に開館した「伝承館」を9月30日、11月9日の2日間で視察してきました。様々な展示資料で学ぶためには、事前学習を含めて問題意識を持った見学の必要性を感じました。展示ブース別に、2回にわたり問題点を中心に報告します。

#### 1 プロローグ (導入シアター)

【映像】1967年～現在 5分間 スクリーン7m×15m

- 始めに、西田敏行のナレーションで、原発建設が雇用創出と高度経済成長の推進役を果たした旨の説明がある。震災や事故の様子が映し出され、最後は、復興を目指す高校生の姿で終わる。

【展示室へ上るスロープの展示資料】

- 時系列による写真資料展示……3/11、14:46震災発生⇒15:37津波到達⇒15:41電源喪失⇒19:03原子力緊急事態宣言発令⇒3/12、15:36 1号機水素爆発
- 県民は水素爆発のテレビ放送で初めて原発災害が発生したことを知ったが、震災当日の20:50、半径2km圏内に避難要請が出ていた。情報発信の遅れについて説明資料はない。

#### 2 災害の始まり

- 震災前、双葉町に設置されていた『原子力 明るい未来の エネルギー』の看板は現物ではなく写真のみが掲示されている。
- 原発災害前(H16)の資料……小学生作文「原子力を考える日」の体験学習。作文は、原発によって地域が発展し、生活が豊かになったこと、人や自然に優しい発電所になることを願う内容となっている。
- 人口減少、石炭産業の衰退の救世主という説明になっている。産業発展の立ち遅れていた地域であり、そこに原発が誘致されたという説明資料はない。

#### 3 原子力発電所事故後の対応

- 避難者に対するアンケート調査結果  
「3月11日から4月30日までの間に、避難に当たって困ったことは何ですか。」  
〈回答〉どこへ避難すべきかの情報や行政からの様々な情報がなかった回答が多い。しかし、なぜ情報がなかったのか、検証資料がない。
- 避難生活の実態を伝える資料が不足。



草原の中にボツンと建つ施設



玄 関



エントランスホール

### 秋闘キャラバンお世話になりました！

今年度は、石川、伊達、西白、相馬、両沼、耶麻、北会、南会、双葉、いわき、福島の11支部を訪問しました。各分会で秋闘の情勢をお伝えしたり、分会の様子をお聞きしたり、運動の大切さを確認できる貴重な機会となりました。お忙しい中の分会対応ありがとうございました。また、支部執行委員のみなさん、お世話になりました。再度分会におじゃまして、加入の声かけをさせていただきたいと考えております。その際は、よろしく願いいたします。



# やってみました! 「学校あるある」② その2

県教組教育課程編成推進委員会  
イメージキャラクター  
「元気にカエルくん」



教文研究員 石川晃民

## チャレンジ!! 働き方改革～A中学校を訪ねて～

連載2回目は、福島県内のある中学校の実践を紹介します。

日々の業務に追われるような働き方から、仲間とともに創造的につくりあげる教育ができる働き方へ発展するための取り組みです。『自分の学校はどうするのか』という視点で、職場の仲間と力を合わせて、「働き方改革」を生み出していきましょう。



働き方改革をするにあたって、**業務量を減らす**ことと**負担感をなくす**ことを最も重要視しています。管理職からの押しつけではなく、全職員で考えることが大切なので、学校の業務で何を減らしたいか、校長からの提案で、**全職員に2個程度出してもらいました**。それをもとに、校長、教頭、教務部が中心になって「**本当に減らせるものは何か**」を慣例にとらわれず吟味したうえで、職員に提案し、協議しました。今年度は大きく以下の3点について取り組みました。

### ① PTA 改革 (減らした方がいい・負担感があるNo.1)

- 学年委員会をのぞく PTA 専門委員会全て廃止
  - ・PTA 広報誌発行なし
  - ・専門委員会選出もないので保護者負担も軽減
- PTA の会議・連絡はタブレットで実施
  - ・PTA 予算でタブレットを購入し、校長・教頭・教務・PTA 三役等に配当。会議は、オンラインで、連絡は SNS で



### ② 生徒の在校等時間減

- 朝7時20分より早く登校しない (校舎を開けない)
- 部活動のある日でも18時30分完全下校
- 漢検・英検などは、学校でやらない
- 部活動はルールに則った活動をする
  - ・朝練・昼練の廃止、放課後・休日はルールの範囲内で
- 各種コンクールは教頭・教務で判断し、担当に回すものをカット!
  - ・校長が「出さなくていい」「出さないで」を随時発信する



### ③ 計画年休の取得推進

- 校長が常に計画年休を促す
- 年休を取れる職場の雰囲気づくり
- 教職員の意識改革を図る
  - ・休むことは悪いことではない
  - ・具合が悪いときは病休で
  - ・校長・教頭も年休をとる
  - ・みんな休みたいときに休む

#### 来年度に向けての見通し

##### ○継続していきたいもの

⇒授業参観日の日数減 (年間1回、もしくは無し)

⇒PTA 総会は紙上承認で十分

⇒情報発信はホームページで!校長が担当する 担任は担当しない

##### ○検討していきたいこと

⇒通知票のありかた (無くせないか、無くせないにしても所見欄を無しにする)



これらの改革は、校長の本気度とリーダーシップ、職員一人ひとりの意見によって成り立っています! 具体的なことは何もせず、「先生方早く帰ってくださいね～」だけでは負担が増すばかり…。

# は学校で! Monster



今回は、西白支部の小学校で、新しく組合に加入されたSさんの分会におじゃましました。Sさんは、今年度新採用ですが、昨年度まで他県で講師をされていました。

### ☆組合に加入したきっかけを教えてください。

講師をしていた際、栃木県の教職員組合が主催する「採用試験対策講座」に参加しました。そのおかげで、出身地である福島県の採用試験に合格したので、組合に加入しました。

### ☆福島県に戻られて良かったなと感じることは何ですか?

今の学校は特設クラブが無く、子どもたちと向き合う時間がたっぷりあって、本当に帰ってきて良かったなあと感じています。また、同僚の先生は優しい方が多く、困ったときは助けていただいております、大変感謝しています。

Sさんのように、「福島に帰ろうかな。」と考えている人はいるはずですが。福島県の教職員となり一緒に子どもたちの未来を育ててくださる教員が増えるよう、今後も引き続き県や市町村教育委員会へ働きかけていきます。

## みんなのひろば

### おすすめのお店

### ～石川町 くっちーな・じらそーれ～

このピザを食べたら、他では食べられない! イタリアン料理がとっても美味しいお店です。初めてお店の名前を聞いたときには「はらくっちーな・じらさねーでござっし〜」かと思っただけで耳を疑いました。フルーツピザがさらに衝撃! ポリューム感たっぷりなので、みんなでシェアですね。 石川支部「なまってんでねえぞいさん」より



今回のテーマは「教師への道②」

学生時代、先輩方から「君たちは本を読まないなあ。もっと読まないでダメだ」とよく言われた。先輩方に触発されてぼくも少しずつ本に触れた。「二十歳の原点」「僕って何」「それどわれらが日々」「橋のない川」「ライ麦畑でつかまえて」。中でも石川達三の「人間の壁」を読んだときには、教育実習で感じた「教師」とは違う「教師の世界」があるのだと知った。「人間の壁」に子どもが亡くなる場面がある。彼は、近くの店より三円安いノートを買うために嵐の中遠い店まで急ぎ、事故で亡くなる。たった三円、たばこ一本にも足りないほどの金高、これが彼の命を奪った。担任教師は彼の小さな鉛筆をかたみとしてポケットに入れる。自分がこの子に何ひとつ有効な協力をしてやることのできなかった、その敗北の記念碑とし胸に刻む。この場面を達三は、担任教師の一つの祈りと表現している。またPTAの圧力で退職させられた教師が「僕のやってきたことはクラスに残っています」と話す場面では、教育の真実は子どもたちだけだと達三は表現する。たくさんの文章にぼくは衝撃を受けた。小学校時代の経験から教師にはなりたくないと思っていたばかりが「教師になってみるかな」と思えた。「人間の壁」は、教育とは、教師とは、聖職者と教育労働者、組合、教研集会、政治、権力、数々のことをぼくに深く問いかけてきた。二十歳のぼくには答えは見いだせなかった。なら教師になつて見つけてみるのも悪くないと思えた。

教師になつてから学習院大学の佐藤学さんの講演会を何度か聴きに行ったことがある。そこで彼はかつての先輩のように「先生方本を読みなさい。方法論ではなくて、教育の専門書を!」その通りだと思った。なぜなら、方法論では石川達三が言う教師の祈りは生まれてこないからだ。でも、学生の時のように「どれ」といって読むことはできなかった。

それは時間にも心にも本に向き合うゆとりがなかったからだ。教師の一日は二十四時間では足りない。

(K・I)